

# 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

(平成 28 年 12 月 7 日 午後 2 時 10 分)

●議長 (小林幸雄) それでは会議を再開いたします。

通告の 4 佐藤仙治議員。

- 1 町長の政治姿勢について
- 2 新年度予算編成方針について

議席番号 3 番・佐藤仙治議員。

◆ 3 番 (佐藤仙治) はい。議席番号 3 番・佐藤仙治です。本日私の質問は、町長の政治姿勢について、及び新年度予算編成方針について、の二点であります。

まず最初に、町長の政治姿勢、言い換えれば、町長が目指す町政運営の基本について及び信頼関係の構築並びに対話と情報公開を主に、お伺いしたいと思います。

町長は、昨年 12 月の定例会議で、町政運営を進めるに当たって一番その根底にあるのは、町民の皆さん方をはじめ、議会、行政委員会の皆さん方、さらには地元従事者たる職員の皆さん方等々と信頼感関係がなければ、その進めようとしていることもうまくいかないし、信頼関係が一番の原点であり、そのことを基本に据えながら、町政運営に当たらせていただいたというふうに述べられております。

就任以来 2 年を経過した現在、これらのことも踏まえ、今後町長が目指す町政運営の基本について、まずお聞かせください。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 佐藤仙治議員さんの御質問にお答えをさせていただきます。私自身も就任をさせていただいて、はや 2 年が過ぎてきているわけでございます。その中で、町政運営の基本についての御質問でございました。お答えを申し上げさせていただきたいというふうに思います。

私自身は、ご案内のように、信頼と活力の町づくりということが、大きくうたわせていただいた当時の公約の 1 行目でございます。特にいろいろなことを進めるに当たって、やはり私自身の立場の事務補助者たる職員の皆さん方と、しっかり意思疎通を図りながら物事を進めていかなきゃいけない。これが、行政運営のまず基本にあるだろうと。そしてまた、私の思っている分野を、意味をしっかりとわきまえていただいて、公約実現に向けても、またそれ以外の問題でも、職員の皆さん方と力を合わせて町づくりを進めていきたいんだと、こういう思いで、そんな言葉を使わせていただいております。また当然、今日のようにと言いますか、議会の議員さん方も、住民の代表として、それぞれ

その任を担っておられるわけでございますので、そういった意味でも、その代表たる議員の皆さん方、そしてまた行政委員会の皆さん方とも、しっかりと関係を構築しながら、お互いに理解をし合える立場で物事を進めていきたいと、こういうことを基本に、進めてきているわけでございます。

そんなことが、どういうふうに、その後それぞれの職員も含めて皆さんに映っているか、その事は私自身が今申し上げる立場ではないだろうなというふうに思うんですが、それぞれのお立場で、過去 2 年の経過を踏まえて、御判断をいただければ良いんじゃないかなというふうに思います。

いずれにしても、私は、先ほども御質問にありましたように、これだけ人口が減っていくと、2040 年には 5200 人になってしまう、そういう予測が、もう既に出ているにもかかわらず、そこに手立てをしないという方向はないと。まして、この町をしっかりと維持存続できる、そんなことに一層力を注いでいかなければいけないだろうと。こういうことで今、進めさせていただいているところが、町政運営の、まず基本になるかなというふうに思っております。以上です。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。信頼関係の中でも、特に町長の事務の補助者たる町職員との信頼関係構築部分について、少しお伺いします。

町長は、町長として仕事を進めるとい立場にあっては、事務補助者たる職員の皆さん方に、自分の意図をよく汲んでもらって、そしてしっかりと行動に移していく、そうしなければその思いは達成できないというふうにもおっしゃっております。この点について、町長のお考えを再度お伺いしたいと思ひます。お願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私自身は、今言われたような思いで、思いと言いますか信念に基づいて、進めさせていただいているのですが、職員の皆さん方も、私から見た場合それぞれ課長さん方を中心に一生懸命取り組んでいただいているなというふうに、今の段階では感じております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。町長、昨年 1 年間に、およそ 160 から 170 回ぐらい、各種会合とかに出られたという御報告を受けています。多分、だから今年になれば既に 300 回ぐらい、私は超えているのではないかなというふうに思うんですけど、直接、町長は町民の視点に立って、私は積極的に町民の皆さんとの対話を通じて生の声を、私は把握しているんじゃないかなと、この会合を通じて。私はそのように感じています。

そこで、特に住民の、その生の声の把握に対して、町長は、町の職員とのつなぎと言ったらおかしいけど、その辺はどういうふうに橋渡しされているのか、生の声を聞いて来て。これが一点。

去年から約 300 回ぐらいあれで、率直なその生の声を聞いた感想について、お聞かせ願えれば、お聞かせ願いたいと思います。以上二点についてお願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。町民の皆さんとの協働の町づくりという意味からしても、私も御案内をいただければ積極的にそれぞれの会合、各種会合には出させていただきます、場合によっては若干アルコールも入りながら、懇親も深めさせていただいていることは、積極的に、進めさせて、何と言いますか、出席をさせていただいております。その中で、その生の声をどう職員に反映しているのかと、こういうことでございますので、私は、一つひとつ細かな事と言うというのも、これは大事な分野については担当課長なりを通じて、こういう意見があるよと、もしあれなら改善してほしいとか、そんなようなことは伝えることはあります。全体的には、そういったいろいろな声が聞こえるわけでございますので、例えば役場のほうに住民の皆さん方が用事でお越しになられる、その時の思いと、いわゆる住民の皆さんの思いというのは、やはり来たくて来るわけじゃないと、そういう中で役場へ来ていただいて、自分自身の用を済ませていただいてという、その思いに、やっぱり沿っていただきたいというようなことは申し上げたりするわけでございます。個々の事については、あまり、先ほど言いましたように、その都度こうだああだというようなわけは、あえて申し上げておりませんけれども。

そして二つ目、その実際、生の声の感想ということでございますが、私、いろいろな思い、思い思いの皆さん方が、やっぱりいらっしゃるなど。つまり、そのそれぞれの会議なり、懇談会なりがあるわけですが、それぞれの目的を持ったそれぞれの会でありますので、そういった意味では、各分野、そしてまた年代層もそれぞれ違ったり、男女別であったり、そんなこともあるわけでございますので、そういった中での、いろいろな思いを聞かせていただく、そしてまた逆に言いますと、私たちが今進めている町づくりについて、せっかくの機会ですから、一生懸命こんなことを今、進めているよということで、御意見も伺う、というようなこともやらせていただいていると、そんな状況でございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。今後も、こういう行動というか試みというのは、続けていかれるというふうに考えてよいのでしょうか。私は、今、町長が一番最後に答弁されましたけれど、町長はやっぱり町のトップセールスマンだと、私は思っています。しかも、地域の人もしっかり話、2年経ったし、大体町長の人柄も分かってきていると思うので、

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

積極的に今後もこういう事は続けていくというお考えなのでしょうか。その辺、合わせて答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） この辺については、従来どおりご要請があつたりすれば、積極的に出て行こうというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。今度は、町長のその意図について、職員に伝わっているかどうか、どのように伝達しているか、その辺について質問したいと思います。

町長は就任以来、職員に対しては、一つとして町民のその視点に立った心の通った対応、二番目としてはアンテナを高くして、三番目としてスピード感を持って、業務を行うように指示されたと、私は思っております。町長の意図は、こういう町長の意図というのは、職員に対して十分に周知されていると考えていますか。その辺について伺いたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今言われました三点を含めて、日頃の考え方については、職員の皆さんに、100パーセントとは言い切れませんが、ほぼそんな思いを感じ取っていただいているというふうに私自身は、ある面、勝手な判断かもしれませんが、そう思っております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。私は、職員一人ひとりに対して町長が自分の考えていることを述べるとともに、相手の考え方もよく聞くという、その対話というのが、やっぱり情報の共有というのは必要ではないかなと思うんですけど、対話するということは、我々も含めて、やっぱり相互のその信頼構築にとっても重要なことだと。こうすることが町長のその意図をよく理解してもらえる最善の方法と思いますが、町長の見解はいかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） おっしゃるとおりだというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。突然ですが、町長は定期的に職員と面接とか、そういうことはやられているのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 特別に日程を設定して、そういうことはやっておりません。私は、できるだけ、時間のある時は、冗談も含めて職員と言葉を交わすような努力は、私自身はさせていただいているというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。まあお忙しいことなんですけど、お忙しい身の上なんですけど、私は、職員一人ひとりと積極的に対話してほしいなど。差し出がましいのですが、それで信頼関係を構築してほしいと思います。それが私の今の生の声であります。今後面接などを通じて職員と積極的に対話されて、信頼関係をさらに構築していただきたいという事を、私の生の声で考えているんです。訴えているんですから、この件について、町長はいかがお考えでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 生の声としての、お届けを今いただいたわけであります。私は、対話ということを考えれば、決してその新たな場を設定してやるとかということも、場合によっては大事なことなんですね。ですからそういうことも大事ですが、通常の中での対話というのも十分大事にしながらやっていきたい、ということでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。それでは信頼の構築というのは、情報とかいうのはこの辺にしておきまして、次の質問に移りたいと思います。

新年度予算は、町長は12月の挨拶で、今回は選挙があるから2月ぐらいということで、挨拶で述べられておりました。新年度の予算は、どのような方針の下で編成されるのか、基本方針は主としてどのようなものなのか、その内容について、概略、答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。29 年度に向けての新年度予算の編成方針についてのお尋ねでございます。

新年度の予算編成の基本的な方針につきましては、過疎地域自立促進計画、そしてまた信濃町まち・ひと・しごと総合戦略、創生総合戦略、また、連携中枢都市圏構想等々に基づいて、既に策定しております第 5 次長期振興計画、あるいは信濃町人口ビジョン、そういった目的達成に向けて、着実に推進していくということになるかと思えます。

したがって、何とかその人口増につながる施策、持続可能な町づくりの推進、こういったことを基本的な前提として今までも進めてきておりますが、移住定住人口の対策、それから観光的な交流活動、交流人口の増に向けての展開だとか、あるいは子育て環境の整備だとか、もう一つはやっぱり、高齢者が安心して長生きしていただく、こういうことも大事だろうということで、これら保健・医療・福祉・介護合わせて、そういった視点に立った充実というのも大事だろうというふうに思っています。そういう意味では、これは新年度ではなくて今年度、例えば 62 歳、67 歳の人間ドックの枠を拡充させていただいたということも、ある面ではそういうひとつの事でございますし、それから地域コミュニティー、これはやっぱり地方創生、国は大きな面で地方創生と言いますが、私はやっぱりこの信濃町の中で、それぞれの集落が元気にならなければいけないということで、いろいろな支援策も打ち出させていただいているのですが、そういう中では、地域コミュニティーをしっかりと維持・活性化できるような方法、そしてまた防災、減災という大事な事があるわけですね。それから一般会計だけではなくて、密接な関係のある繰出金をやっている国保会計だとか下水道会計の、まさにこの経営の健全化というのも、大きな一つになってこようかなというふうに思います。

いろいろな中で、そういった事等々を含めて財源的には、この辺を、優先的な配分になってくるかなというふうに思って、今既に方針を出させていただいて、予算編成の緒に就いてそれぞれ職員が努力しているところでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。予算を編成するに当たっては、財政運営の健全化というのが、私は非常に大事なものだと思っています。それで特に歳入歳出の面から二、三、ご質問したいと思います。

特に歳入確保の面からは、町税の収入未済額等について、お伺いしたいと思います。昨日、代表監査委員から、28 年度の前半というか 27 年度も含めて、決算報告、いろいろ監査委員の意見もありました。その中で、27 年度末の収入未済額は、一般会計で約 1 億 3700 万。特別会計で約 5200 万。総額で約 1 億 8900 万余となっております。収入未済額のうち、特に、町税の約 1 億 3200 万と国民健康保険税の約 4000 万の合計、1 億 7200 万余円は、全体の 91 パーセントを占めていると、その町税と健康保険で。やっぱり自主財源のその根幹を成すというのは、私はやっぱり町税だと思うので、代表監査委員から

指摘もありましたけれど、この未収金の縮減というのは、最重要課題であり、代表監査委員からも縮減するよというふうには指摘されているんですけど、町としてこの件について、縮減計画の目標設定値や期限を定めた工程表ですか、そういうことで、そのどのようにして管理されていくのか、その点についてお伺いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） もし私の答弁で不足があったら、また担当課長の方から答弁していただければよいというふうに思いますが、基本的には今おっしゃるように、税の公平感だとか、負担の公平感だとかということを考えてときに、まさに昨日も御指摘いただき、毎回と言いますか、代表監査委員さんからも御指摘をいただいているところでございます。

町としましても、手を組んで待っているというわけではありませんで、一つは、例えば広域的な対応としても、滞納整理機構等々に委ねながら、委ねるといって一緒に滞納整理をする、そしてまたそれぞれの担当職員もやると。こういうことをやっているわけですが、片や町民の皆さん方にとってみても、それぞれの御事情があるということも、これ事実なんです。ですから、その辺のこともお聞きしながら、なんとか納めていただきたいという段取りをつなげながら、その成果に結び付けさせていただくという努力をさせていただいているということは、ひとつ御理解をいただきたいというふうに思います。

私、例えば町民税、町税で、町民税関係で予算上では約、確か 3 億 5000 万円ぐらいだと思っんですね。固定資産税関係で 8 億ぐらいでしょうか。合わせて 10 億、11 億というようなベースになるかと思いますが、そういう面からしまして、自主財源の確保というのは、しっかりとやっていかなきゃいけないということでございますが、現実の問題とすれば、そういったいろいろな、様々な事情があって、なかなかその回収に結び付かないということもあるということも、理解していただきたいと思っます。

ただ、御指摘のように、できる限りの努力は今後もさせていただきながら、長期滞納がないような、そんな方向を、また今後も引き続き努力をさせていただきたいと思っます。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 議員のおっしゃるとおり、平成 27 年度末の収入未済額につきましては、縮減に向けた積極的な取り組みによりまして、対前年比 910 万円余が減少してきております。先ほど議員からお話がありました、その収入未済額の縮減計画等があるのかということでございますが、大きな中での計画というのはございません。それぞれ税務係、また住民国保年金係等で、良い意味で地道な努力をする中で、住民の皆さんに寄り添った相談をさせていただきながら縮減に向けて努力をさせていただいている

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

ところであります。以上であります。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。もう一点、歳出削減に関して、総人件費の抑制…すみません、歳出削減に関しては、総人件費の抑制及び補助金交付金関係等についてお伺いしたいと思います。

まず、職員の定数管理であります。職員の定数管理については、第 7 次信濃町行政改革大綱の計画に基づいて推進されていると、私は理解していますが、現在までの進捗状況、その詳細についてお伺いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） それでは第 7 次行政改革大綱の定員管理の進捗状況について、ご説明申し上げます。

第 7 次行政改革大綱につきましては、平成 26 年の 4 月 1 日現在を起点としまして…平成 27 年を起点としまして、平成 31 年の 4 月 1 日までの目標としております。目標値につきましては、毎年 1 名ずつ減員の、平成 31 年 4 月 1 日現在では 114 名という目標でございます。

現在の状況でございますが、平成 28 年の 4 月 1 日現在の目標値が 117 名に対しまして、2 名進んだ形で、実績値については 115 名の定員となっております。なお本定員につきましては、病院会計のように、どちらかというと看護師だとか医師を増やしたいという面もございますので、この人数につきましては、水道、病院等の病院の企業会計職員については、除いた数でございます。以上でございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。関連して、今の総人員 115 名の、その事務系と技術系、あるいはそういう分類ができるのかどうなのか、その辺について分かっていたら答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。内訳としますと、全て一般ということで、事務系・技術系という分類はございません。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。



## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

■総務課長（高橋博司） 大変申し訳ございません。技術系の中には、イの 2 表を支給しております保健師、また獣医師等が含まれております。人数につきましては、確認してお答えいたします。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。私は何で今日この質問をしたかという、例えば今後、いろいろな面で、採用関係というのは、私も良く分からないんですけど、技術系と、よく事務とか言いますよね。例えば橋梁とかいったら、事務系の人あまり分からないと言ったらおかしいけど、そういうような心配というのはいないのでしょうか。最後のその 115 人になった時の、その割合というのを、私質問しようと思ったんですけど、そういう問題提起は、問題というの、考えていなくてよいのでしょうか。変な話、やっぱり道路は道路のその、この辺についてちょっと町長のお考えをお聞きしたいんですけど、お願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 基本的に、一般事務吏員ということで採用しているわけです。その中には、初級、中級等々の枠があるんですが、その技術系で、そのそういう部分で募集しないと、後々そのいろいろな、道路だとか公共施設と言いますか、そういったものに影響しないかと、こういうことであります。

これ実は数年前から、昔は土木振興会という組織があったんですが、今は建設関係においては長野建設事務協議会ということで、例えば小川村、長野市、信濃町、飯綱町とこういう中で、それらをカバーするためにそういった組織を作って、技術系の事務を担当する、そういうことは工事等々については、やっているんですね。

通常の中で、通常の中で技術系がいなくて良いのかと、こういうことでございますが、本当は、いた方が良いんですね。ただ問題は、これだけの小さな人員の役場と言いますか、ですので、専門に、その方を専門職として雇ったときに、その事が良いか悪いかというの、またちょっといろいろな問題があるかと思うんですね。

したがって、大きな段階では長野建設事務協議会ということでやっているんですが、その他については、一般事務吏員という採用の枠の中に、技術的な学校を出ている皆さんもいますので、そういった皆さん方の知識も活用させていただきながら運営しているというのが実態かなと。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。町長の考え、分かりました。そこで、技術系というのはほとんどいないというふうに、いないと言ったら申し訳ないんですけど、少ないと。これか

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

ら少子高齢化とか、いろいろ社会情勢が変わっていく、いろいろ橋梁とかいうのも古くなっていく、道路も古くなっていく、やっぱりそういう技術系というのは、私は必要になってくるのではないかなと。ほかのところで手当しているよと、これ職員で、そういった面を何か底上げしていくような研修とかお勉強会とか、そういうようなものは何か考えておられますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） これは技術的な研修だけではなくて、それぞれ一般行政全般にわたってそれぞれの分野での研修がありますので、その都度、必要に応じてそれぞれの分野での研修というのは、職員には積極的に受けていただくように、研修計画の中でも取らせていただいているということです。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。次ですね。先ほどちょっと私、冒頭に申しあげましたけれど、補助金の、その交付関係について、お伺いしたいと思います。これも、昨日ですか、代表監査委員から、補助金交付関係については交付要綱の見直し、整備を実施するよう指摘があったと、私は認識しています。この件について、要綱の見直し、整備はどのような手順で、いつまでに実施していただけるのか、その辺についてお伺いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。中間監査を受けまして、定期監査受けまして、監査委員からの指摘事項につきましては、理事者の方から指示がございまして、それぞれの所管課等において検討するよう、これから今後進めてまいる状況でございまして、先ほどの補助金交付要綱につきましては、指摘を受けたそれぞれのものについては、随時作成をしておりますけれども、指摘事項の中にもございました指針等の作成につきましても、今後総務課の方で検討を進めてまいりたいと考えております。期限につきましては、監査委員事務局の方に、その回答をしなければいけないということで、その期限までにとということで、方向を考えておりますが、実施につきましては、その以降ということになってまいります。よろしいでしょうか。

それと答弁保留分についても加えてお伺いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） はい。どうぞ。

■総務課長（高橋博司） 105名のうち、技術系の職員の内訳でございしますが、10名で

ございます。残り事務系が 95 ということでお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。今答弁では、期限は特に答弁はなかったのですが、私はこれはやっぱり来年度予算に反映すべきだと考えるんですけど、この辺、町長どうでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 指摘、監査委員さんから定期監査の御指摘をいただいた部分、これ実は今、総務課長も言いましたように、私はあえて先般の課長会議の中で、しっかりとその辺は対応してくれという指示と言いますか、お願いをしたところであります。期限の問題なんですけど、これは基本的には新年度予算執行になるわけですから、その時点までには、要綱なりをピシッとなっていないといけないだろうというふうに、当然思いますので、できるだけ早く間に合うようにやるのが筋だろうというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。あとは、職員のその意識改革ということ、私ちょっと質問させていただきます。

昨今の状態を見ると、世間全体としては、人口減少や少子高齢化の進行、様々な社会経済情勢の変化の中で、町民の多様化するニーズ、それに対応した行政サービスを行うために、やっぱり職員一人ひとりが更に能力や意識を高め、能率的に仕事を進めるとともに、より効率的に、より低いコストで、より質の高いサービス、といった民間の経営感覚を身に着けることが、私は不可欠ではないかと。これは第 7 次行政改革大綱にも、しっかり書いてあるんですけど、今ちょっとその技術系と事務系の話をしましたけど、この件に関して、意識改革という点で、町長の認識をお伺いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 職員の意識改革ということですが、これはちょっと平たく言いますと、やはりその職員研修が大きく関わってくるだろうなというふうに思いますね。そういう中では、研修、先ほどともちょっとかぶりますけれども、それぞれの分野分野において、研修を積み重ねているわけですので、その中で、その先ほど話がありました職員自身が研修の成果といいますか、そういったことを土台として、まさにそのアンテナを高くしながら、そしてまたスピード感を持って、企画立案も含めて、できるような体制というのが一番大事なことでありますので、そんな事を研修も、それぞれまた初任

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録(2 日目)

者研修だとか、中級者研修だとか、上級者管理職研修だとか、こうあるというふうに今も思うんですが、そのほかに職務に応じた研修も当然あるわけですね。それらしっかりと研修を積んで、研修の機会を確保して、そして今おっしゃるような総体的なレベルアップと言いますか、につなげていくと。そのことも今、やっているところでもありますし、また今後も引き続いてそんな方向で努力してまいりたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。最後に、人事評価制度の導入の、その導入というか人事評価制度の、進捗状況についてお聞きして、私の質問を終わりたいと思います。お願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。人事評価制度につきましては、平成 26 年度の地方公務員法の改正に伴いまして、平成 28 年より、人事評価制度の実施及びその結果を基礎とした人事処遇への反映が義務付けられております。平成 26 年度より、研修会やアンケート調査を実施し、組合員も含めました検討委員会を開催する中で、平成 27 年度から試行を行い、平成 28 年度から本格実施となっております。なお、病院におきましては、現在試行を進めております。人事評価につきましては、職員の優劣をつけるということではなく、職員の意識改革を促し、能力を開発し、職務の改善を行い、PDC サイクルを実施実行させることにより、人材育成となるように努めているところでございます。以上でございます。

◆3 番（佐藤仙治） 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

●議長（小林幸雄） 以上で、佐藤仙治議員の一般質問を終わります。

この際、3 時 5 分まで暫時休憩といたします。

(午後 2 時 50 分)